

「若い世代を対象にしたコミュニティ活動の必要性」 チャタジー 公子 (インド)

人口密度の高い西ベンガル州は、インド全面積の 2.7%の土地を占めているが国人口の 8%を養っていかなければならない。稲作を中心とする農業は州収入の 50%を占める主要産業だが、他州に比べて州農業人口に占める小規模限界農民の割合は極めて高く (94%、全国平均は 78%) 農家あたりの平均所有農地は 1ヘクタールにも満たない(0.85ヘクタール、全国平均 1.55ヘクタール)。州人口の約 70%が何らかの形でこういった農業や農村に関係していることは、コミュニティ活動の重要な背景とも言える。*

* データ出典： 1) Soils of West Bengal for Optimizing Land / “National Bureau of Soil Survey & Land Use Planning” 2) West Bengal/CMIE (www.cmie.com/database)

当州で 25 年近く農村地域開発と持続的農業普及に従事してきた私たち NGO、DRCSC (Development Research Communication and Services Centre) が気づいたことの一つに、地域の生活向上や環境改善には、大人の地域住民だけではなく、次世代の子どもたちをも視野に入れることが大切だという点がある。現在農業に従事している農民と同様、将来農業に従事するであろう青少年にも、特に小規模農業においては、地域資源を観察し有効に農業に生かす環境重視型農業の意味や技術を学んでもらうことが効果的であると考えている。この流れで DRCSC は農村地域を中心にした環境教育プロジェクトを 7-8 年前から始動させたが、同時に他の団体にも若い世代を対象にしたトレーニングを提供していきっている。

それら協力団体にニシタ (NISHTHA) という女性 NGO がある。1975 年に設立され、健康、教育、未成年の労働問題、収入向上など女性を対象にした多面的な活動を行っている。その活動の一つに 5 年前から、学校に通っている女子学生 (14-16 歳) を対象にした「持続的農業教室」を毎週日曜日に実施しており、DRCSC からの専門家の指導も月に 2 回の頻度で受けている。実際農作業の大部分は女性によるものだが、作付けや収入の割り振りは家長である男性が担っており、男性は職業に Farmer(農民)といえども女性は Farmer とは呼ばれていない。この「教室」では農業を将来の職業の選択の一つとして肯定的に捉え、しっかりした技術をもった女性農民を地域に増やすことを目的としている。若年での結婚を防いだり、低賃金を求めて若い娘が都会へ出たりすることも防げる。ことにニシタの活動地域はコルカタの都市に隣接する近郊型農村なので、農地が商工業用地に売却される問題、農薬の使い過ぎによる環境破壊の問題が顕著だが、環境を保全できる有機農業をうまくやれば市場が近い分、収入の向上も見込まれる。1年半のトレーニングを受けた女子学生はすでに 100 名近くに上り、自分たちの学んだことを村の女性たちに指導していける若いトレーナーもこの中から育ってきている。女性の間にも単なる手伝いではなく農業に

「従事」しているという意識が出てきている。ニシタの試みは、女性たちが農業に責任を持ち決定できる力を自ら育むことが、コミュニティ開発につながっていける一つの有効な道だと示唆していると思われる。



ニシタの「持続的農業教室」は1年半のコースで20名の女子生徒を対象。当団体のデモンストレーション農場で参加者たちは実地で技術を学ぶ。



コースを修了した20名の女子生徒は5つのグループに分かれ、自分たちの学んだことを母親たちや村の女性たちに伝えていく役目も担っている。コースではコミュニケーションや教える技術も学ぶ。